

糖尿病

血糖を下げるインスリンの分泌が低下することが原因で糖尿病が発症します。インスリンは膵臓のベータ細胞から分泌されます。このベータ細胞の効力が弱くなることで血糖が高くなり糖尿病を発症することになります。日本人の糖尿患者は年々増加しています。食生活の欧米化が原因と考えられていて、日本人は糖尿病になりやすい体質といわれています。また、インスリン抵抗性といって、インスリンは分泌されているにもかかわらず血糖が低下しない状態も糖尿病に関係しています。これも、肥満が原因となっています。

糖尿病合併症

長期間血糖が高い状態が続くと、全身の血管が障害を受けて合併症が認められるようになります。細小血管症である、網膜症、腎症、神経症が代表的な合併症です。網膜症は目の網膜の血管の障害で眼科医によって、また腎症は尿中の蛋白（微量アルブミン）の測定によって発見されます。神経症は、足先の痺れや感覚異常で発症します。早期に発見することで治療可能ですが、やはり血糖コントロールを良好に保つことが重要になってきます。具体的には、採血で示される HbA1c（ヘモグロビン A1c）が 7%を超えないように管理します。これは、大血管症である心筋梗塞や脳梗塞の予防にも関連します。また、その他の合併症として、歯周病や認知症、癌の発症とも関連していることが判明しています。糖尿病の治療は、この合併症を起こさないようにするため、と言っても過言ではありません。

DPP-4 阻害薬

インスリンを分泌する膵ベータ細胞に働きかけ、血糖を下げる薬物です。最近開発された薬物でインクレチン（消化管ホルモン）関連薬とも言われています。インスリンの分泌促進や膵ベータ細胞の保護増殖作用が期待されています。低血糖を起こしにくく、また日本人の糖尿病患者に使いやすい薬剤になっています。

GLP-1 製剤

DPP-4 阻害薬と同じくインクレチン関連薬で注射として使用します。一日一回、自己注射することで、より強く膵ベータ細胞に作用させることができます。最近では、週に一回の注射薬も開発され、より患者さんに負担なく治療を受けられるようになりました。